

## 育休と一たんのはなし【前半】

僕は平成27年秋生まれの男の子の父です。1年間の育休を取っていました。「父親なのに長期育休？」と驚かれることが多い世の中ですが、そんな僕が気づいたことや感じたことをお伝えします。

母親目線から知りたいことを、同じ月齢グループ「ウール100」の皆さまに質問してもらいました(感謝)。回答はすべて、僕の個人的見解によるものです。

### 一育児にはどう関わってるの？

最初は何もわからず、産後の妻の負担を軽くしたい一心で、ジーナ式とかフランスの育児とか、保育所保育指針も調べて、どんなことも「正しく」やろうとしていました。でも、自分中心のやり方を妻に押しつけていることに気づかず、かえって妻の心の負担を増やしてしまい、何度もぶつかりました。身近に頼る人がいなくて夫が育休を取ったのに、その夫が重荷になったのです。今は物理的なことより、妻の気持ちを第一に育児に関わるよう心がけています。世の中の母親の負担感、一番身近な夫が、妻の気持ちを理解できていないことが大きいと感じます。その解決が、家族の成長につながるような気がしました。

### 一家事の分担はどうしてる？

特にありません。気になれば自分でやるし、やらないなら気にしない。もともと家事好きで、体が勝手に動くので。

### 一育児の分担はどうしてる？

育休中はやりたくていっぱいやらせてもらった感じです。復職後は、お互いの予定にあわせて保育園の送迎やごはんを分担。職場まで1時間半かかりますが、時短や在宅を使って、夕方には家のように調整します。父親がそこまでやるの？と思われがちですが、育休でずっと子どもと過ごしたせいか、今も積極的に育児したい気持ちが続いています。



彼は僕を「とーたん」と呼びます。  
1歳半から絶賛イヤイヤ中。

### 一思った以上に大変だったことは？

寝ぐずり。赤ちゃんは寝るものと思っていたらうちの子は寝ないのです。それと数時間おきの調乳と煮沸消毒。肉体も精神も悲鳴が。最終的に哺乳瓶5〜6個を使い回して耐えました。冬の早い日暮れとともに、心も暗くなりましたね。

### 一思った以上に楽しかったことは？

いっぱい発見できたことに尽きます。子どものことができるが増える瞬間に立ち会えることが、何より幸せでした。

### 一育休を取ってから変わったことは？

もともと子どもは苦手で、泣かれるほうでしたが、今は子ども好きになりました。一年間の育児を通して、発達過程やいろんな個性があることがよくわかったからだと思います。そのせいか、前より子どもに好かれる気がします。それと、お金も時間もなくなるので、かえって自分にとって本当に必要なものが見えました。物欲もすっかり減りました。

### 一育休を経験していない父親に伝えたいことは？

母親が赤ちゃんのお世話をできるのも、赤ちゃんが母親を好きなのも、遺伝子に組み込まれた「本能」ではありません。母親も最初は育児の初心者。自分の時間を赤ちゃんに捧げたから体得できる能力であり、自分の時間を赤ちゃんにあげる見返りで好きになってくれるんです。育休して、自分の時間を捧げることができれば、父親も母親と同じレベルになります。本当ですよ。



「育休と一たんのはなし」後半は、ほかほか12月・1月合併号に掲載いたします。どうぞお楽しみに！